

霊の結ぶ実「柔和」

2009/9/3

ガラテヤ書5章22～23節

これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、**柔和**(にゆうわ)、節制です。これらを禁じる掟はありません。

好かれる性格・嫌われる性格

	好かれる性格	嫌われる性格
1	思いやりがある人	ずるい人
2	誠実な人	人をバカにする人
3	やさしい人	卑劣な人
4	気さくな人	わがままな人
5	寛容な人	嘘をつく人

<1985年に心理学者の齊藤勇氏が行った調査>

「柔和」(やさしい)とは

- 思いやりがある

- 「一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、」 <エフェソ4:2>

- 人当たりがやわらかい

- 「主の僕たる者は争わず、すべての人に柔和に接し、教えることができ、よく忍び、」 <Ⅱティモテ 2:24>

- 同情的である

- 「兄弟たち、万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、“霊”に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。」 <ガラテヤ6:1>

柔和な方、イエス・キリスト

- 「シオンの娘に告げよ。『見よ、お前の王がお前のところにおいでになる、柔和な方で、ろばに乗り、荷を負うろばの子、子ろばに乗って。』」<マタイ21:5>
- 「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」<マタイ11:28-29 >

イエス・キリストに見られる優しさ

ヨハネ福音書8:2~

朝早く、再び神殿の境内に入られると、民衆が皆、御自分のところにやって来たので、座って教え始められた。そこへ、律法学者たちやファリサイ派の人々が、姦通の現場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、イエスに言った。「先生、この女は姦通をしているときに捕まりました。こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうかお考えになりますか。」イエスを試して、訴える口実を得るために、こう言ったのである。

イエス・キリストに見られる優しさ

イエスはかがみ込み、指で地面に何か書き始められた。しかし、彼らがしつこく問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。」そしてまた、身をかがめて地面に書き続けられた。これを聞いた者は、年長者から始まって、一人また一人と、立ち去ってしまい、イエスひとりと、真ん中にいた女が残った。イエスは、身を起こして言われた。「婦人よ、あの人たちはどこにいるのか。だれもあなたを罪に定めなかったのか。」女が、「主よ、だれも」と言うと、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。」

本当の優しさ

- 共に苦しむ

- 「ファリサイ派の律法学者は、イエスが罪人や徴税人と一緒に食事をされるのを見て、弟子たちに、『どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか』と言った。」＜マルコ2:16＞

- 同じ痛みを負う

- 「重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、『御心ならば、わたしを清くすることがおできになります』と言った。イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ...」＜マルコ1:40＞

今最も求められている力「共感力」

- 心理学者カール・ロジャースによって提唱されたカウンセリングの基本姿勢
- 治療者の態度が心の病を治す
 - 自己の真実な姿を見つめる真実性
 - 無条件の肯定的配慮
 - 共感的な理解
- 共感してもらうことによって癒される

「柔和」は人を生かす性格

「見よ、わたしの選んだ僕。わたしの心に
適った愛する者。この僕にわたしの霊を授け
る。彼は異邦人に正義を知らせる。

彼は争わず、叫ばず、その声を聞く者は大通
りにはいない。正義を勝利に導くまで、

彼は傷ついた葦を折らず、
くすぶる灯心を消さない。」

＜マタイ12:18-20＞